

ユ ニ ッ ト 名	島根大学生生活協同組合住まい事業部
代 表 者	島根大学生生活協同組合住まい事業部 石原大輔
所属人数	6名
達成に資するSDGs目標	12 つくる責任つかう責任 15 陸の豊かさを守ろう
活 動 概 要	本企画は、島根大学を卒業される学生の方々に、不要となった家具・家電を回収し、島根大学に入学する新入生にお渡しする取り組みです。 卒業生にとっては、これまで共に過ごしてきた家具・家電を「捨てるにはもったいない」と感じることも多いかと思います。本企画を通じてそれらを回収することで、処分費用の削減につながるだけでなく、新入生への想いを形として受け渡すことができます。 また、新入生にとっては、初めての一人暮らしに必要なものを知るきっかけとなり、先輩方が大切に使用してきた家具・家電を受け継ぐことで、物を大切にする心や感謝の気持ちを育むことができると考えています。 SDGsの観点からも、処分に伴う環境負荷を抑えるだけでなく、物を長く使い続けるという視点から、長期的な環境負荷の軽減にもつながる取り組みです。
主 な 連 携 先 (予 定 を 含 む)	
成果物の公表予定、 社会への波及効果	この活動は以下のSDGsの達成に貢献しています。 目標12「つくる責任 つかう責任」 現代社会では、大量生産・大量消費によって膨大な資源が消費され、同時に多くの物が短期間で廃棄されています。特に家具や家電のような耐久消費財は、本来であれば長く使えるものであるにもかかわらず、引っ越しや卒業といったライフイベントを機に処分されてしまうケースもあります。そこで本企画では、卒業生が不要となった家具・家電を「廃棄」ではなく「お渡し」という形で再活用することで、限りある資源の有効活用につながると考えています。まだ使用可能な物を必要とする人へとつなぐことは、「物を作る側の責任」と「使う側の責任」の双方に目を向けた行動であり、持続可能な消費と生産の形を体現する取り組みです。 目標15「陸の豊かさを守ろう」 家具や家電を作るときだけでなく、処分するときも必ず自然の資源に大きな影響を与えています。そのため、本企画では、そうした家具や家電を廃棄するのではなく、次に必要とする新入生に譲渡することで、資源を循環させ、使用期間を延ばすことができます。この「もう一度使う」という選択は、新たな製品の製造を少しでも減らすことにつながり、ひいては自然の生態系の保全にも貢献します。